



北大阪打ち水大作戦（摂津市・千里丘市場池公園）本文中に関連記事があります

目次／contents

人・まち・地域…………… 2

- ・ 博覧会となごやめし／尾関利勝
- ・ サードステージを迎えた関西学研都市／杉原五郎
- ・ 「あまがさき市民まちづくり研究会」から見えてくるもの
／馬場正哲
- ・ 姉小路界隈を考える会の活動の十年／石本幸良
- ・ 茨木アートプロジェクト～茨木美術“環”／中塚一

きんきょう…………… 10

- ・ 記録し、語り継ぎ、約束し、守る／三輪泰司
- ・ 夏の習慣になるか？「クールビズ」と「打ち水」と…／原田弘之
- ・ オンナ印・オトコ印の私たち／廣部出
- ・ 新人紹介
- ・ 所員一言メッセージ～その1
- ・ 出版のご案内

メディア・ウォッチ…………… 17

- ・ めざせベストサポーター／大河内雅司

まちかど…………… 18



予想以上に評判の「愛・地球博」

大阪万博から35年ぶりに我が国で開催された万国博覧会、「愛・地球博」もいよいよ閉会間近になりました。入場者数は当初予想の1500万人を上回る2200万人に迫る勢いです。このレターで紹介した原稿を書いたのは開会直前から直後の時期で、多少の混乱が予想されたものの、ふたをあけると結構スムーズに運営され、好評の内に閉幕を迎えようとしています。

例年、この時期には台風が来るのですが「金しゃちを天守から降ろした時には水を呼ぶ」と言う過去の定説とは裏腹に、なぜか今年は台風が名古屋をさけて行きます。きっと名古屋城博で「金しゃちを参観者が手でふれる」ようにしたことが金しゃちに喜ばれ、これまでの定説を変えたのかもしれない。

博覧会は当初の企画からずいぶん縮小されて実施されたのですが、それにしても結構好評でした。愛知県青少年公園の限定された条件での会場設営、CO²の削減や環境に対応した建物や乗り物の技術、介護からエンターテイメントまで多様に活躍するロボット、通信と連動する大型映像の定着など先端テクノロジーの駆使にとどまらず、外国パビリオンの展示・ショー、毎日、日替わりで繰り広げられるショーアップされたエンターテイメントなど、ソフト面でも35年の進歩を感じさせる楽しい催しでもありました。

とりわけ「食」に関しては、一部に料金が安いという声があったものの、期間限定イベントにありがちな臨時の食堂風ではなく、様々な外国パビリオンがお国自慢料理を提供し、快適な雰囲気の中で本格的に世界の味を楽しめたのも今回の博覧会の特徴でした。

「なごやめし」と「名古屋嬢」

博覧会開催の前後から、情報誌、マスコミで名古屋が取り上げられることが目に見えて多くなりました。顕著な例が「なごやめし」と「名古屋嬢」です。

「なごやめし」とは名古屋の飲食店が東京に進出

し、人気を得ていることから言われるようになったもの、「名古屋嬢」とはファッション雑誌などで評判になった名古屋独特のちょっとセレブなファッションのお嬢様のことです。これまでは名古屋城を筆頭に信長・秀吉・家康の三英傑、あるいは超豪華な嫁入り物語だけが名物と思われがちな名古屋にとって、食とファッションが生活感覚で全国の話題になるのは希なことです。

尾張名古屋の食の代名詞と言えば「みそ・烏・麵」、今人気の「ひつまぶし」は全国一の生産量を誇る愛知のウナギの代表料理です。みそに代表される伝統バイオ食品には酢、味噌、酒があり、江戸時代以来、知多半田は日本の代表的産地の一つでした。今も残る江戸時代の製法に近い半田の酢を活かし、江戸の鰯を再現した「尾州はやずし」は業界からも評判の優れたもの。

見落としがちなのは伊勢・三河湾の海の幸で、大半が下関に出荷される天然ふぐは今や伊勢湾が知る人ぞ知る日本有数の産地なのです。天むす、みそかつ、あんかけスパゲッティ、小倉トーストなど人気の「なごやめし」は伝統の素材を現代風にアレンジする「ものづくり名古屋」ならではの味覚創造に他なりません。

地域と食文化

食は地域の個性を表す代表的な文化です。だからこそ、旅人の楽しみの一つに郷土料理の味わいが欠かせません。ローカルな名古屋文化が全国に広がるのも情報化時代の博覧会効果の一つと言えるでしょう。こんな所にも観光・交流時代の予兆を感じます。



代表的ななごやめしの一つ みそ串カツ（写真は東区とん八）

サードステージを迎えた
関西学研都市
～近況とけいはんなへの思い～
大阪事務所／杉原 五郎

けいはんなのベンチャー企業が新製品開発に成功

8月24日の夜、けいはんなプラザで、「けいはんなのまちづくりを考える会」の第23回例会を開催しました。報告者は、(株)構造機能科学研究所の鈴木社長、報告のタイトルは、「けいはんなで生まれたスキンケア革命～肌の弱いひとでも安心して使える全身泡洗剤料の開発に成功～」。

(株)構造機能科学研究所は、理学、工学、医学、薬学4分野の研究者が出資して生まれたベンチャー企業で、設立当初よりけいはんなに研究拠点を置いています。6年に及ぶ研究開発の結果、今年の2月に新製品開発に成功しましたが、新たな商品をどのように販売していけばよいのか、販路の開拓や資金確保に苦勞されています。例会参加者からは、新製品の効能や使い方についてさまざまな質問が出され、販路拡大について幾つかの提案が出ました。

けいはんなオブザープの発行

8月26日、国際高等研究所の会議室をお借りして、「けいはんなオブザープ」のNPO法人設立のための総会が開催されました。このNPOは、大阪大学名誉教授で国際高等研究所フェローの後藤誠一先生が呼びかけられたもので、けいはんなの地にコミュニティ・ペーパーを根づかせることを目的としています。住民と研究機関との交流、行政のカベを乗り越えた住民相互の交流をめざし、まち開き10周年を迎えた昨年11月に創刊されました。



現在すでに3回発行され、京田辺・精華・木津の学研1市2町だけでなく、奈良市などを含めて約8万戸に配られています。取材と記事の執筆は元新聞社の記者が担当していますが、最大の問題は、コミュニティペーパーを発行するための費用の捻出で、けいはんなに係わりのある企業や研究機関などに広告費という形でご支援いただいで経営しています。ちなみに、私も、このけいはんなオブザープの趣旨に賛同し、まちづくり情報の提供や編集などで積極的に協力させていただいております。

けいはんな広域クラスターの形成

けいはんなは、1978年の奥田懇談会による提言を契機として、特別法の制定、都市建設と街開き、セカンドステージプランなどを経て、サードステージを迎えました。今年の3月に有識者懇談会の提言が出され、8月からサード・ステージ・プランの策定がスタートしています。

上記と関連して、けいはんなにある大学や研究機関との域内連携だけでなく、関西の主要な学術研究拠点や産業集積地域の企業との広域連携を進めて、地域のイノベーションシステムを構築していこうとする取り組みが始まりました。知的クラスター創成事業、産業クラスター計画などを踏まえて、研究領域の拡大と深化、シリコンバレー(米国)や中関村(中国)など海外との交流の促進、産業集積地域との連携による産業化施策などを積極的に進めていこうとするものです。

私は、奥田懇の提言以来、関西文化学術研究都市構想の具体化とその推進に力を注いできました。最近、生活者の視点からいろいろな方々との交流と連携の輪を広げています。このけいはんながさらに輝きを増して、全国にそして世界に大きく羽ばたいていくことを期待しています。



市民参加から協働型まちづくりに向けて

平成10年10月、尼崎市の総合計画策定に当たり市民参加に取り組むため、公募により「市民まちづくり研究会」を立ちあげました。翌年6月に市民提言を提出、審議会答申を踏まえて、平成12年12月、「尼崎市第2次基本計画」が策定されました。

基本計画では、横断的な分野間の連携を視野に重点的に取り組む「戦略プラン」が設定され、その第一に「協働型のまちづくりの仕組みをつくる」が盛り込まれました。これからのまちづくりの基本となる、市民、事業者、行政がそれぞれにふさわしい役割を果たしながら、まちづくりを進める「協働型のまちづくり」の仕組みをつくる。①協働型のまちづくりに数多く取り組むなかで、市民、事業者、行政のそれぞれが、経験を積み重ね、②「協働」の経験を通して市民、事業者、行政がそれぞれの役割やかかわり方を学び、③市民相互の連携や意見調整など、協働のまちづくりの気風を育てる。このため、協働型事業を拡大し定着を図り、まず市役所を変え、段階に合わせた支援を進めるとしています。

市民まちづくり研究会の自発的継続

「市民まちづくり研究会」は提言のまとめで終了しました。しかし、その後も市民有志が自発的に研究を重ね、志を同じくする人の参加も得て、新たに「あまがさき市民まちづくり研究会」を発足させました。火付け役の責任として、否応なく小生も巻き込まれており、そこから市民協働の現場報告を試みます。

その活動は、基本計画の市民の推進役を任じ、尼崎の都市イメージ戦略として尼崎城に着目した「歴史文化ゾーン」での、地域資源・資産を保全活用したまちづくりについて学び、アピールの実践を行った「地域活動推進講座」の開催。多くの市民

グループが一堂に会して発表やワークショップなどを行い、グループが互いに連携をしていくきっかけづくりを目標とした「市民まちづくりフォーラム」。また、子ども達が歴史や環境について楽しく学ぶ「親子環境教室」や「夏休み歴史絵画教室」の開催など、様々な場面で幅広い活動を行い、多くの市民がこれらの行事に参加し、交流の芽が育ちつつあります。

尼崎市・教育委員会・阪神南県民局などの後援や広報支援をいただき、尼崎環境塾同窓会、市史を読む会、子ども会、阪神南ビジョン委員会ははじめ多くの団体と連携の輪が広がりはじめています。

一方で、尼崎の市民活動は、行政が仕掛けた自然と文化の森協会、尼崎21世紀の森づくり協議会や、NPO一番乗りのシンフォニーはじめ、文化、環境、福祉、子育て、男女協働参画など多種多様な目標や形態を持った団体が盛んに活動を始めています。**多様な活動の拡大から連携そしてネットワークへ**

市民参加から市民主体の活動とその連携、そして協働のまちづくりに向かううねりは、量から質が問われてきています。

本当の意味での「参加の拡大」が開かれたという意味でも重要なのですが、実態は閉鎖的であったり、限られた人が様々な活動に関与し、実質的な参加の拡大は壁にぶつかっているといえます。団塊世代のリタイアと地域デビューを控え、新たな人の参加は、機会と動機の形成という面で技術的にも大きな課題です。

「連携の促進」も、活動グループ同士は成果主義やテリトリーの主張、囲い込みなどのジレンマにあり、お互いの連携を口にはすれども、警戒心と競争心で排他的なのが実情です。また、地縁の機関（旧村組織や自治会など）との関係も必然的に問題で、時には対立的な場面が生じます。



市民交流フォーラム



子ども歴史絵画教室

「城内フォーラム」子ども高校生の参加による
地域再発見と一夜城づくりに挑戦

このような現状のなかで、多様で力強い市民活動からの発信の高まりは、「市民主体」の形成の上で、不可欠の条件です。一方で、市民にとっては「何のためにやっているのか」の違和感と猜疑心を持つことも多々発生します。これを協働型まちづくりの主体に高めていくための、「公」や「私」のバランスや透明性、総合力などの資質形成を視野に踏まえながら、活動相互の連携の体験共有が重要な段階にあると考えます。

現在のモール状態からネットワーク形成の萌芽が生じるかがポイントとなってきているといえます。

協働のための制度づくりとコミュニケーション力

ネットワーク社会の形成には、ネットワークの「心」の発生が必然と思われます。そのためには、社会の多様でパワフルな「パフォーマンスの充実」とその総体が必要なというまでもありません。その総体の価値観が社会の共同の福祉、則ち「社会の徳」の気付きにあると思われます。

また、多様でパワフルなパフォーマンスの充実とともに、活動が柔軟で可変的であることも重要です。お互いの認知、役割調和の意識の形成にとっては、諸活動の間の「情報の共有」「学習機会の共有」などの仕組みが重要となっています。このための制度整備や意識啓発・意識形成とともに「場」としての実態づくりが必要な段階に来ています。

協働型社会の形成場面での課題は行政改革課題を別にして、次の点が挙げられるのではないのでしょうか。

[市民活動の力量の養成（多様性、柔軟性、即興力、財政力、事務能力など）]

- ・市民活動の多様な役割と効果の評価と広報
- ・市民活動の協働・連携による総合性の創出

[連携の仕組みの構築]

- ・市民まちづくり活動と市民公益活動の評価と支援体制の整備（都市整備や商業振興型協議会など縦割り支援から、普遍的なまちづくり組織への支援の制度整備、積極的な公共事業の市民提案推進）
- ・地縁型コミュニティの再生（行政協力機関から主体的なコミュニティ・ガバナンスへの再生）
- ・テーマ型コミュニティと地縁型コミュニティとの協働促進（ネットワーキングなど）

- ・コミュニティ連携の基本ノウハウ（文化）の醸成
- ・その「場」としての「プラットフォーム」の確立

[ネットワーク環境の確立]

- ・多様で柔軟な中間支援組織や専門家の育成
- ・情報・学習機会の創出と共有の促進
- ・情報化の促進、情報システムの改革・普及
- ・市民まちづくり事業の具体化と支援（指定管理者制度の促進、市民公益事業の基本的ノウハウの構築、企業や事業者、専門家との協働の促進、専門家の投入、役所職員の派遣）

- ・徹底した役所業務の市民事業への移管

[市民の「公」意識の涵養と文化化]

- ・柔軟で可変的であることの本質は、コミュニケーション力にあり、人との理解力、瞬時的な判断と実行力が問われる。

- ・これまでの上意下達の文化でない、自由で平等な人間の本質的な生き方に根ざす新たな規範・文化・資質が問われる時代がきている。

尼崎の状況は、自治システムが旧来型で強固であることなど、ネットワーク型社会システム形成の道のりは程遠い感があります。しかし拙速でないだけ協働参画型社会の真の実現に、より近道をいつているのかもしれませんが。



姉小路界隈を考える会の 活動の十年

京都事務所／石本 幸良

私の姉小路界隈の活動紹介も回数を重ねました。姉小路界隈との公私を超えたおつき合いも今夏で丸10年を迎えました。宮本憲一先生の講演会（平成13年1月）で、「住民のための政策づくりをするには最低は10年かかるだろう。だから10年くらい経ってうまくいかないようであれば、そのやり方どこか間違いがあるのでやり直さなければならない。10年くらいはじっくりとやってみんなが納得するような具体的な対策のようなものに持っていくことができれば、一つの出発点になるでしょう。（会報23号）」との先生の言葉を反芻しつつ、活動を継続してきました。

姉小路界隈を考える会の設立

平成7年6月に発生したマンション建設に伴う界隈での反対運動を契機として、10月に姉小路界隈を考える会を設立しました。当初は建築協定の締結を一つの区切りと考え、活動を支援してきました。しかし、その後の展開は全く予想もしなかった方向でした。

まちづくり活動の展開

界隈のみなさんの思いと行動力を基本ベースに、多くの先生や専門家の方のアドバイスを、界隈に蓄積された資源との融合の中から、界隈らしい新たな情報として活動に変換し、発信してきました。「灯りでむすぶ姉小路界隈」は平成9年から継続して実施していますが、京都のまちなかで、市民による灯りのイベントのおそらく最初の取り組みでしょう。「花と緑でもてなす姉小路界隈」は界隈に似合う鉢植えを並べ、界隈のもてなしの心の表現として、平成10年から毎年2回ずつ花を入れ替え、継続しています。

活動の契機となったマンション建設用地の土地利用について、住民と事業者及び行政が協働で検討する「地域共生の土地利用検討会」を発足させ、真の

意味でのパートナーシップ型まちづくりを実践しました。平成14年夏に「アーバネックス三条」が完成し、現在も入居者の方と界隈の交流活動が継続しています。活動の初期段階の「対立の構図」から、活動を継続する中での「対話を尽くす」プロセスを経て、「価値の共有」を目指す活動へと転換していきました。

界隈式目から町式目へー建築協定の締結

会の設立の目的「住みよい、安心して暮らせる環境づくり」の具体化に向け、江戸時代の自治管理体制の要となった「町式目」の勉強会から、平成12年4月に「姉小路界隈町式目（平成版）」を策定し、界隈のまちづくりの基本方針としました。

ちょうどこの時期に発生した新たなマンション建設問題を契機として、建築協定の取組を開始、平成14年7月に都心部で、13町内会、区域3ha、約100人の権利者で合意面積は約2haの広範囲な建築協定が実現しました。活動開始からちょうど7年が経過して、ようやく初期の目的が達成できました。

街なみ環境整備事業による京町家再生

京都市から京町家と調和した街なみを創造し、地域の魅力や活力を高めることを目的に、「街なみ環境整備事業」の導入の提案を受け、調査が開始されました。平成14年度に「姉小路界隈地区街なみ環境整備事業」のまちづくり整備方針、15年度に「まちづくり協定」を策定し、16年9月末に「まちづくり協定とその区域」の京都市の承認を得ました。協定は「姉小路界隈町式目（平成版）」を実現するために、都心界隈の居住環境を保全しつつ、職住共存地区の環境を維持増進することを目的とし、協定区域は建築協定区域を対象としています。16年度には事業制度を活用して2件の京町家再生が実現しました。

<街なみ環境整備事業による京町家再生事例>



修景前



修景後

会の活動を開始して10年が経過した平成17年3月に姉小路通に京町家が再生され、会設立の目的である「誇りに思える町並みづくりを、まちの皆の手で実現する」ことができました。

平成17年度まちづくり功労賞受賞

このような姉小路界隈を考える会の10年間の取り組みの成果として、去る6月に国土交通省のまちづくり月間において「まちづくり功労賞」を受賞しました。

NPO法人「都心界隈まちづくりネット」の設立

住民や地元企業から「まちづくりを自らの手」とする大きなうねりが生まれ、都心界隈において、それらを包括しながら連携協力し、行政との協働を図ることのできる組織の必要性が確認され、姉小路界隈を考える会のメンバーが中心となって、平成15年1月16日に特定非営利活動法人「都心界隈まちづくりネット」を設立しました。

姉小路界隈を考える会の活動による具体的な成果

考える会の設立以来の活動と平行する形で、都心界隈において、様々な新しい建築ルールの導入が実現しています。会の継続した活動が新しいルール導入の後押しになったものと確信しています。

具体的には、職住共存地区を対象にダウンゾーニングの新しい建築ルールが平成15年4月から実施されています。御池通ではシンボルロードにふさわしいにぎわいの創出に向けて、建築物の建築の制限に関する条例が導入されています。

また、京都市は歴史都市・京都にふさわしい景観の保全策を検討する「時を超え光り輝く京都の景観づくり審議会」を設置し、2006年度中に答申をまとめることとなっています。この審議会の発表において京都市長は都心の「田の字地区」について、「統一感のある街並み形成が必要」と強調し、建築物の高さ規制を「幹線道路沿いは現行の45mから31mに、それ以外の場所では31mから20mに引き下げること必要」との考えを示しています。新しい都心景観の方向として、市長が都心部の高さを引き下げること強調したことは「美しい都市・京都づくり」に向けた画期的な方針と言えます。

今年も地蔵盆を迎えました

毎年8月の地蔵盆が近くなると、界隈の活動が1年を経過したことを実感します。「灯りでむすぶ姉小路界隈」の準備に向け、行灯や提灯の補修、まちかどの植木鉢の草花の補充、そして地蔵盆の準備と多忙になります。界隈のメンバーが一同に顔を合わせ、いろいろと1年間を振り返ります。イベントや地蔵盆の参加者が増加しているところを見ますと、会の活動も界隈に定着しているものと感じています。一つの節目と新たな出発点を「今」感じています。



ひと・まち・地域

茨木アートプロジェクト
茨木美術「環」
大阪事務所／中塚

つぶやきから始まるアートプロジェクト

昨年の12月末、数人の「茨木でアートイベントが開けたら面白いのにね。」というつぶやきから約6ヶ月。様々な方々を巻き込み、初めて会った人と人が「まち」や「アート」への熱き想いをバトルしながら、途中、何度も難破しそうな綱渡り実行委員会の運営のもと、7月1日～3日の3日間、茨木のまちなかを舞台に、様々なアートイベントが展開されました。

茨木美術「環」とは、

茨木市には美術館がありません。しかし、「ハコ」はなくてもアートに触れる方法はいくらかでもあるはず。「茨木のまちに集う人たちの手で、茨木のまちの文化芸術について考えていこう」という取り組みを中心に、自分たちで、アーティストに招待状を送り、まちのあちこちにアートのスポットを創り、それをまち全体でリンク（環）しよう。身近にあるアートスポットを、もっと多くの方々に気軽に訪れていただいたり、仮設スペースを皆で創ってみたい、とさまざまな切り口からアートに触れよう。まちの魅力を再発見しよう。このような主旨に共感した様々な年代の様々な職業の方々が集まり、「茨木アートイベント」の話し合いが始まりました。

ところで自分たちにとって「アート」とは？

色々な人が集まってはみたものの、ナイナイづくしの状態（お金がない、組織がない、場所がない）で、

「本当にやるの」、「今年はプレで実験的にやってみては」など声のトーンが段々下がってくる中、「ところで自分達にとって「アート」とはなにか」をいう難題(?)を何度も何度も話し合う会議が続いていきました。

その時期の企画書の中にコンセプトとして、「茨木の街なかで、重層的にアートに触れ、アートについて考える場をつくることで、新しい人、新しい価値に出会いませんか。茨木のもつ街の魅力を生かし、アーティストとのコラボレーションで元気をもらい、芸術文化活動を支援できる成熟した街になることを市民発でめざしたいと思います。」とあります。参加した方々の中で、この出会いを大切に、新しい何かを皆で創っていききたいという想いが芽生えていったのかもしれない。

イベント企画の内部プレゼンと実行委員会でのコンセンサス形成

「とにかくやろう」という想いが集結してきた段階で、各参加者からイベント企画の内部プレゼンが行われました。様々なアイデアと具体化していくための場所や予算の確保など、それぞれの企画を相互理解しながら、熱い想いと客観的な判断を含めて皆で合意形成していくというプロセスが踏まれました。これが、後に時間と予算が無い状況の中で、皆で相互に協力しながらプロジェクトが進められた重要なキーポイントとなっています。



比嘉章乃氏による学生とのワークショップによる戦闘機のインスタレーション



霜山直良氏による町屋カフェにおけるインスタレーション



旧小学校校舎での波多野敦子氏によるチェロ演奏

当日のイベント内容を少し

当日のイベント内容とプログラムの詳細は <http://www.ib-artloop.org/index.html>、当日の様子は <http://www.infomart.or.jp/i-kouryu/ev.html#artloop> をご覧頂くとして、ここでは少しだけ当日の雰囲気を感じていただくため報告させていただきます。

①沖縄などの現代作家によるワークショップ・アーティストトーク

沖縄のアートプロジェクト「ワナキオ」実行委員会の一人、上江田常実氏のコーディネートにより沖縄の現代作家である伊江隆人氏（インスタレーション）+比嘉章乃氏（インスタレーション）+山城知佳子氏（映像）によるワークショップやアーティストトーク、仙台を拠点に活躍する霜山直良氏の展覧会、水野真澄氏による春日丘高校旧本館写真展が開催されました。

②共振～木の空間でのアコースティック・ライブ

町屋再生によるカフェ「cafe 百花」や小学校校舎再生の「画廊 橋本工務点」などの木の空間で、関西を中心に活躍する波多野敦子氏（チェロ）、菊志乃史氏+田中佐和氏（琴・三弦）、Esquina do Som（ポルトガルギター：月本一史氏+クラシックギター：水谷和大氏）の3組のアーティストによるアコースティック・ライブが開催されました。

③アートオークション

関西で活躍する吉田容子氏（蠟缬染め）、志摩欣

哉氏（版画）、林雅彦"DEKA"氏（イラストレーション）、右近こうじ氏（パステル画）の4人のアーティストが市内のカフェ等にそれぞれの作品を展示し、投票形式で入札するオークションが開催されました。

④期間限定カフェ

商店街内の空き店舗をリノベーションし、期間限定カフェが2件オープンしました。デザインは、関西インテリアデザインの草分け的存在の野井成正氏と茨木在住の建築家の橋本健二氏です。

⑤映像

町屋再生のカフェにて、新進作家による映像作品や独自セレクトによる映像が上映されました。

その他、大学生による公式MAPの作成や、まちとあかりを考えるというイベント等、様々な場所で同時多発的に色々なイベントが繰り広げられました。

継続する現代のお祭りへ

当日は、2日ともあいにくの雨でしたが、市内外から様々な方々がイベントに來られて、アートとともに茨木のまちを楽しんでおられました。しかし、一番楽しんでいたのは実行委員会の面々であることは、当日の写真やビデオの皆の笑顔でわかります。

これらの「まち活かし」による「イベント（まちコト）」が、現代の「まち衆」によって現代のお祭りへと継続・発展していくのではないかと感じておられます。



Esquina do Som（ポルトガルギター：月本一史氏+クラシックギター：水谷和大氏）のライブ



野井成正氏による期間限定カフェ「内と外」



橋本健二氏によるカフェ「キリシタン」



記録し、語り継ぎ、約束し、
守る

取締役会長／三輪 泰司

戦後60年。テレビ・新聞・雑誌は盛んに「戦争を語り継ぐ」特別企画を組んでいました。

歴史は未来を創る力になります。歴史を語り継ぐためには、まず記録を大事にしたいものです。そこで、まずは“Media Watch”編から。

私の8月15日

岩波新書「子どもたちの8月15日」。2005年7月20日刊。

著名人33人が、その日を中心に体験を語っています。皇后美智子さんの文章もあります。1933年から1940年の生まれ、当時小学生で“学童疎開”を経験した世代です。私は1931年生まれの子で、その少し上の世代です。

1・2年の差で記憶の度合いが随分違います。そして、1・2年の差で、生死を分ける体験の違いがある時代をくぐってきました。

記憶といっても、私などは奥手の方で、間もなく満14歳になるという中学2年でしたのに、灰色のかすみの中に、斑点が散らばっているようなものしかありません。

後で調べると、1945年8月15日は水曜日でした。夏休みだったのか、学校へ行かず、祖父のお使いで朝から嵯峨へ行きました。お盆で祖父母は疎開先の上嵯峨から、隠居へ帰っていました。快晴で暑い日でした。

正午に大事な放送があるとい

うニュースが伝わっていて、大人達はそわそわしていました。嵐山の親戚一渡月亭へ寄れということで、行ったら大きな竹籠に、野菜をいっぱい詰め込んで持って帰れというわけです。背負い帯を付けてもらっているのですが、地べたに置いたら持ち上がらない。

お昼が近くなるし、あせったです。嵐電で四条大宮へ。電車は意外にすいていて、なんだか皆、おし黙って妙な雰囲気です。下に置いたらいかんということだけが頭にあって、籠を背負ったまま、チンチン電車に乗継ぎ、汗だくになって家に着いた時、丁度正午でした。

茶の間のラジオの周りに、祖父母と叔母が座っていました。33人の方々も同じですが、「玉音放送」はよく聞き取れませんでした。「世界ノ大局マタ我ニ利アラズ」というところと「シノビガタキヲシノビ、タエガタキヲタエ」というくだりで、おおよその察しがつきました。負けたんだと。写真の乃木大将のようなあごひげの、祖父は、じっと座ったまま、一言も発しませんでした。表へ飛び出したら、真っ青な空で、周りには人っ子ひとり見えず、静まりかえっていました。

「紅の血は燃ゆる」

1・2年の違いで生死が別れました。私の学年では一人も戦死者がありませんが、1年上からは沢山死にました。校長が全員陸軍士官学校・海軍兵学校を受けよと訓辞しました。国語の世良先生の悲しげな顔が目焼き

ついています。多くの先輩は生きて帰りませんでした。

昭和46年に読売新聞社から「学徒勤労動員の記録—紅の血は燃ゆる」が出ています。私達、京都三中の2年先輩である、京大名誉教授の天野光三先生や、俳優の田村高廣さんらのクラスの人たちが、戦後25年に体験記録を編集されたものです。“紅の血は燃ゆる”とは、学徒勤労動員の歌の歌詞からとったものです。

それは終戦の前年、昭和19年12月8日でした。毎月8日は「大詔奉戴日」つまり、対米英宣戦布告の詔勅を賜った日ということで、平野神社にお参りに行ったのです。全校生といっても、3年生以上が動員に行き、1・2年生だけ。この日は普段と様子が違いました。

前日7日午後1時36分、マグニチュード8.0の「東南海地震」が、京都三中生が動員されていた中島飛行機がある半田を襲い、工場が倒壊して13名が亡くなったという報せがあったのです。私たち在校生は、翌日からの学期末試験は中止、12日に京都駅へ遺骨迎え、13日に校葬。

神風が吹いて敵を追い払うどころか、地震であたら若い命を失うとは、亡くなった先輩の遺骨を抱いて、口に出しては言えませんが、“天は我を見捨て給うや”と、暗い気持ちになったことは憶えています。

「紅の…」の記録によりますと、東南海地震による死者871名。その内、中島飛行機山方工場での

殉難者 153 名。その内半田高女生 29 名、豊橋高女生 23 名、京都三中生 13 名をはじめ、96 名が動員学徒です。

この工場は、元紡績工場であったのを、飛行機の組み立て工場にするために、鉄骨の柱を抜いてしまっていたのです。機密保持のために出入り口が極端に少なく、そこには衝立があって飛び出せなかったのです。

「子どもたちの...」は小学校年齢で、学童疎開をしたように、まだ戦力にするには間がありましたが、中学生は労働力であり、戦闘予備軍です。当時大学進学率は極めて低く、大学生はエリートで、国家としては優秀な人的資源として温存しておかねばならなかったのですが、遂に「学徒出陣」といって、まとめて動員するにおよびました。戦後の再建を担うべき人材が多く失われました。今でしたら、大学生・フリーター年齢層が厚く、大量に即戦力として使えるということになるのでしょうか。

田村高廣さんは「この貴重な記録によって、戦争とは何かを考え、われわれの世代との対話のきっかけになってほしい」と言っておられます。まさに戦争の名の下に、奪われ踏みにじられていった青春、学業半ばにして狩り出された若き魂の墓標です。

「うちの横町に爆弾が落ちた」

6月26日、西陣爆撃で戦争の怖さを実体験しました。京都は空襲を受けなかってよかったですねというのは、戦争が終わってか

らの話です。京都だけが免れるとは誰も思っていなかったのです。京都では東山馬町の空襲の方がひどかったようで、西陣の方は知られていませんが、これは私の小学校区が中心です。

京都市上京区のホームページで、学区紹介をご覧になると、出水学区は「子どもたちに語り継ぐ戦争」と、体験者の6年生社会科でのお話や、市会議員の国枝さんらの鼎談を、お読み頂けます。

その日は薄曇りでした。朝から空襲警報が発令されて、学校へ行かず家にいました。B29の編隊は京都上空を福井方面へ行ったのでしょうか。午後、警報が解除され、表へ出て見上げたとき、東北方向から、ものすごく大きく一機のB29が見えたかと思うと、ザーという、トタン屋根に砂利を撒くような、すさまじい音がしたのです。あわてて家に飛び込み、脱いだばかりの鉄カブトをかぶり、土間にしゃがみ込んだとたん、ズズーンと、地響きがして、壁土がバラバラと落ちてきました。てっきり隣へ落ちたかと思いました。実際には直線距離で800mほどもあったのですが。外へ出ると、トントン音や、襖の切れ端が降ってきました。翌日、堀川の水が、ヘンに濁っているのが不気味でした。

後から判ったことですが、250キロ爆弾が7発、1つは不発で、お寺の井戸に落ちたそうで、お寺は今もあります。下立売通の山中油店の前には爆弾の破片が展示されています。

完全な緘口令が敷かれていて、何も判りません。戦後になって、父が少し話しました。警防団に携わっていてすぐ現場へ行っています。小学校の体育館にゴザが敷かれ、何十という遺体が並べられていたこと。とてもむごいもので、男女の区別もつかなかったと。死者70名とも言われています。子どももいます。一家全滅した家もあります。小学校時代の同級生も何人か亡くなりました。今年の6月26日、地元有志が集まり、追悼法要が行われました。

爆撃を受けたのは、平安京大内裏の中です。左近衛府から外記廳へかけてのあたり、内裏から100mも離れていません。土の下の文化遺跡が破壊されました。アフガニスタンで、仏教遺跡を爆破したと世界が糾弾しましたが、戦争は文化を破壊します。経済競争は、ルールを外すと戦争になり、人の心を引き裂き、文化を破壊します。

戦争終結3ヶ月後、1945年11月16日、ロンドンで「国際連合教育科学文化機関憲章-ユネスコ憲章」が署名されました。

人類は悲惨な体験から、きちんとした約束を決めねばならないと一致したのです。

その前文は、教育は勿論、我々の仕事にも、NPO活動にも、とりわけ、テレビ・新聞に携わる人々への指針を与えています。

冒頭の一節 — 「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かねばならない」



夏の習慣になるか? 「クールビズ」と「打ち水」と…

大阪事務所/原田 弘之

暑い夏をできるだけ快適に過ごす工夫をいくつ知っていますか? 行水、打ち水、うちわ、風鈴、昼寝(早起き)、簾・よしず、川床、ところてん、かき氷、怪談・肝試し…などなど。この夏、「クールビズ」が話題となりましたが、もう一つ、「打ち水大作戦」もメディアによく取り上げられました。

打ち水は、水が蒸発するときに周囲の温度を下げる効果があり、大都市のヒートアイランド対策としても、近年注目を浴びています。

大阪府では、北大阪を中心に、7月20日～8月31日までの期間、「北大阪打ち水大作戦」を展開しました。作戦の柱は二つ。一つは散水車による下水高度処理水の道路への散水(期間中毎日)。もう一つは、打ち水のPR作戦です。市民・NPO、事業者、行政などからなる推進の場として「北大阪打ち水ネット」を立ち上げ、各種イベントやPR活動を行いま



「打ち水屋台」イベントごとに登場する

した。40カ所を超える、各地の夏祭りでの打ち水体験や小学校での打ち水実験(約1～4℃下がります)、ポスターやチラシ、うちわ、ステッカー、フリーペーパー、たすき、のぼり、打ち水屋台などを使った普及活動です。ホームページも開設し、詳しい情報も発信しています。

<http://www.uchimizu.net>

「打ち水」は、もちろん環境面の効果をねらった取り組みですが、それだけではなく、打ち水に関わる文化や、打ち水を通じたコミュニケーションなどに注目し、「打ち水」に新しいまちづくりの可能性を発見できればと考えています。

最後に、「クールビズ」もそうですが、今後この「打ち水」が夏の古くて、新しい習慣として定着するか、あるいは、一時的なブームとして終わってしまうかは、「打ち水」の深め方や広げ方とともに、つねに新鮮な遊び方を生み出せるかにかかっているように思います。

まあ、一度やってみて下さい。結構、気持ちよくて楽しいですよ。



吹田市垂水神社での「打ち水の儀」(初打ち水)

オンナ印・オトコ印の私たち

京都事務所/廣部 出

京都府精華町の男女共同参画計画策定のお手伝いを通じ、男女共同参画社会づくりがまちづくりと不可分なことを強く感じました。

男女共同参画社会とは?

平易な漢字に騙されて分かった気になりそうですが、実はこれはgender-equal societyの訳語。ジェンダーが対等な社会を意味します。ジェンダーとは私たちが持つ男らしさ・女らしさのイメージや意識のことなので「女だから～」「男なのに～」などの言い回しがすっかりNGとなる社会ということ。

男女共同参画“前”社会の逆襲

男女共同参画は社会の安寧秩序を揺るがす! 斯くしてあちこちで「逆襲(バックラッシュ)」が開始されます。ジェンダー・フリーは男らしさ・女らしさを否定する、フリー・セックスにつながる、など非難轟々。残念なことにこの暴論は未だご健在です。諸論ありますが男女共同参画の考え方は男らしさ・女らしさを否定するものではありません。即ちジェンダー・バイアス・フリー。ジェンダーを理由に個人の人格や人生が制約(gender roleを強要)される社会を変えよ

うということです。

カワればカワル

その彼岸に向けては、知識普及と意識啓発ももちろん大切ですが、性が個人の属性のごく一部であることを社会的に再発見し制度やルールを具体的に変えることがとても重要です。色とりどりのランドセルを子どもが自由に選ぶCMがありますが、あんな感じです。

ガンコなヨゴレ

というのも、私たちが生活歴のなかで血肉としてきた感性・常識・慣習、社会として文化として継承してきた規範などの諸々は非常に頑なだからです。カラフルなランドセルの存在でようやく男女別のランドセルのおかしさに気づいても、あくる日には男の子には働く自動車の、女の子にはピンクのリボンの柄の紙おむつを選んだりするくらい。

次世代につなぐ人権文化

心身・社会に染み付いた偏見が簡単に払拭できない以上、次世代が持みです。誰もがアタシ印でのびのびとできる世の中にしていくために、社会全体をジェンダー・バイアスに敏感な視点から少しでも見直し、そして人権文化を少しでも高めて次世代へつなぎたいものです。

新・人 紹・介



京都事務所／浅野智子

今年5月10日付で入社した浅野です。

わたしは、在学時から、阪神・淡路大震災後の白地地区の復興まちづくりを支援するなど、研究活動とNPO活動（当時は制度としてはありませんでしたが）を並行して進めてきました。アルバックでは、昨年度から、景観シミュレーションをテーマとした都市再生モデル調査や男山団地の再生にむけた市民提案をまとめる作業などにに関わり、色々な方面の方から丁寧なご指導をいただきました。公共地の



活用に関するシミュレーションでは、画像を加工して、切り貼りするなど、楽しく作業しました。

まだまだ仕事になれませんが、事務所内外の多くの方から学ばせて頂きたいと思います。まだお目にかかっている方が多いですが、今後ともどうかよろしく願いいたします。

所員の一言メッセージ～その1

「すべて道の途中」

石井 敏史（京都）

かけがえのないものを大切に夢を忘れることなくどこかいつまでも変わらないそんなまちづくりに目立たないよう役立てればいいな と

身体が第一

石川 聡史（京都）

この数か月、目の回るような忙しさでしたが、体調はきわめて良好でした。身体が第一のコンサルタントとしてふさわしい人間になっているようです。

私の今の肩書きです

石本 幸良（京都）

アルバック計画部長、姉小路界限を考える会アドバイザー、都心界限まちづくりネット事務局長、立命館大学講師、京・まち・ねっと主宰。京都を中心にまちと関わっています。

ラジオ（いつもそこは新世界）

大久保 悠子（京都）

最近ラジオを買いました。長年愛用したものが壊れたので、落ち着いた日々でした。新しい相棒の決断には勇気がいりましたが、とにかく今は一安心といったところですよ。



きんきょう

現場で汗しています

大河内 雅司 (大阪)

「大河内さん手伝ってや」「ありがとう助かったわ」。必要とされてなんぼの厳しい世界。住民や行政マンと一緒に作りあげていく現場で汗(冷や汗も)かいています。

前向きに Let's go fly!

岡本 壮平 (大阪)

都市環境デザイン、景観まちづくりに取り組んでいます。最近、子供＝未来の視点を大切にしたいと思っているのは、私自身、子育てで真っ最中だからでしょうか。

地域の元気と事進めに熱中

代表取締役社長 金井 萬造 (京都)

35年の経験をフル活用して産業や観光、都市農村交流等の振興をめざし、世代を超えて若さの発揮に努力中です。委員やボランティアなどの多くの役回りに新人挑戦中です。

日々“情熱大陸”

絹原 一寛 (大阪)

悪戦苦闘しながらも、情熱をそそぐことのできる仕事をさせてもらっています。趣味の音楽活動も大変充実しています。絶えずクリエイトする自分でありたいと思います。

出会いは学びの契機

木下 博貴 (名古屋)

今年の4月に名古屋事務所に入所しました。まだまだ未熟ですが、人との出会いにこそ学びのチャンスがあると思います。これからもたくさんの人に出会い学びたいです。

阪神タイガース絶好調!

黒崎 晋司 (東京)

地元国立市で一市民としてまちづくりの活動に取り組んでいます。国立市民には熱い人が多いので、日々鍛えられ元気をもらっています。

「百尺竿頭一步を進む」

高坂 憲治 (大阪)

温泉、楽農生活、小中一貫校、伝建保存地区、大規模団地建替、療養型病院、吉川元春……。今これらについて様々なことを考え、様々なひととの関わりの中で一步一步進んでいます。

Flag

高野 隆嗣 (京都)

「地域や組織の戦略構築と経営運営」に貢献しつつ、平和・民族自決・地域の自立・子ども達の幸福を追求する。そんなプロフェッショナルで私はありたい。

わがまちの地域資源体験

小阪 昌裕 (大阪)

小・中学生のわが子と一緒にふるさとの原風景を体験中。小学校区内の標高233mの稲荷山、全国区の神社、最古の小屋のあるJR駅、町内の寺では、この地藏盆に座禅体験。

笑って!笑って!

後藤 久美子 (大阪)

近頃怒りっぽくなりました。笑いや涙の効果は耳にしますが「怒り」はどうでしょうか。効果はともかく笑っている方が幸せな気分になりますよね。でも笑うにも練習が必要です。

お願いする側から

小林 佑造 (東京)

700戸強の建替えをお願いする立場で携わっていると、受ける側からは見えないものが見え始めてきます。立場別・問題別の整理が大変必要なのだと実感しています。

「権利変換」手法を携えて

齋藤 侑男 (東京)

これまで関わってきた法定再開発事業は工事なかばまで進み、最近では、密集市街地での共同建替えや住宅団地の建替えのお手伝いを始めました。「権利変換」のお陰です。

人間らしさをとりもどそう!

坂井 信行 (大阪)

便利さや効率を優先する世の中が引き起こした大事故で大けがを負いました。3か月入院して、人間らしく生きられる社会の実現をめざしていくことが私の目標となりました。

フットサルでいい汗流そう

澤田 英郎 (大阪)

日頃の疲れを癒し、かつ明日の活力を養うため、毎年秋にフットサル&銭湯大会をしています。アルパックに縁のある人なら誰でも参加OK!一緒にいい汗流しませんか?

大切なのは人の力・人の元気

嶋崎 雅嘉 (大阪)

農をテーマとしたNPOに参加している。そこでは、人力で全ての作業を行い、とれた作物で味噌なども作る。一人ひとりが色々な技を持つことが地域の元気なのだと思う。

そばで地域活性化を進める幌加内

杉原 五郎 (大阪)

日本一のそばづくりで地域活性化を進める、北の大地・幌加内のまちを訪れました。厳しい自然条件の中で、知恵を使い、必死に生き抜こうとする幌加内の取り組みに感動しました。

もっと、異業種交流。

高田 剛司 (大阪)

ものづくりを中心に、様々な業界の人の話を聞ける機会が増えてきています。異業種交流や他流試合を通じて、話題の引き出しをたくさん持ちたいと思います。

京都検定に合格するぞ！

高橋 はるみ (京都)

京都商工会議所の主催で昨年より「京都検定」が始まりました。チャレンジして、3級は合格しましたが、2級は難しかった…今年合格するぞと、天神様にお参りです。

地域経営のお手伝い

田口 智弘 (大阪)

最近、合併、総合計画、行政評価、行財政改革等が仕事の中心です。荒っばいですが、全部ひっくるめてプラスアルファして地域経営計画に展開できないかと思案中です。

まち活かしはコト起こしから

中塚 一 (大阪)

まち「づくり」からまち「活かし」へと視点をシフトしてみると、色々な方々と出会いました。街衆の熱い想いを集結するとイベントが祭りへと変わっていくのを感じています。

「沖縄にはまっています」

仲野 めぐみ (大阪)

最近機会があって沖縄に行ってきましたが、何度訪れても違う側面が見られて面白いです。料理、言葉、海、音楽。沖縄に行けば、みんな「いちやりばちょーでー」です！

3日坊主で終わらせない！

中村 孝子 (大阪)

日記をつけたら3日坊主が常。最近、仲間の影響でブログとmixiをスタートし、かなりはまっている。現在、5ヶ月目の記録を更新中。飽き性の私がいつまで続けられるかは謎。

景観法は施行されたが

野口 和雄 (東京)

景観法は施行されたが、美しい景色を近代的法システムで創造できるか、美しい景色で都市は活性化するのか。この課題にチャレンジしているところです。

まちの現場で現役です

馬場 正哲 (大阪)

この夏、尼崎祭あまテラスで、「藻川の生き物すくい」と「かき氷」の店を森の仲間と出した。生き物すくい250竿、かき氷800杯。人まみれで楽しかった。人生、寄りの如きのみ。

痛みを解決できない専門家

早川 周 (名古屋)

「専門家とは限界のある人のこと」とは難病患者から細分化、専門化された現代医療に投げかけられた批判であるが、我々の課題をも提起する。

私の楽しい！？ 一週間

原田 弘之 (大阪)

月 まずは「田園空間博物館」
火 「セルフビルド」で小屋づくり
水 もちろん「打ち水大作戦」
木 金はないけど「森林バンク」
金 一緒に「大阪湾見守りネット」
土 仕事×子どもの相手=?

「家族の集う場」

原田 稔 (大阪)

息子の小学校入学を期にテーブルを造った。食事も、勉強も、お絵かきも、家事も、仕事もできる少し大きめのダイニングテーブルを。

無趣味なので……。

廣部 出 (京都)

喰ったパインの種が苗になりました。うどんとパスタを打ったら、ほうとうと中華風卵麺になりました。愛犬愛猫は半田付けの邪魔をします。夏の單車弄りは暑く痺いです。

エコライフ実践中

福井 秀樹 (名古屋)

エコ住宅に関する業務で得た知識を活用して木造密集地に我家を建設。初めて迎える蒸し暑い名古屋の夏を風通しと日差しの調整で乗り切るエコライフに取り組む毎日です。

「私の元気の源は……」

藤井 明美 (大阪)

7月からほぼ毎日半身浴を続行中。1日の疲れとストレスを汗と一緒に排出。心身共にリフレッシュ後は水分(Beer)補給しながら、明日も頑張ろうね！と猫に語りかける。

「心・技・体」

鮎子田 稔理 (大阪)

時々、出勤前か帰りにジムへ行き筋トレやウォーキングなどで運動不足の解消をしています。水は軟水を1日2リットル～3リットル常温で。でも夜半になると何故かその水にアルコールが混じります。

辛抱強くガンバラないと

本願 雅史 (東京)

実務に就き2年目になりました。現場での調整や法令の解釈に日々、悪戦苦闘していますが、この新鮮な感覚を忘れずに、辛抱強くがんばっていきたいです。

人・まちと出会う楽しみ

間瀬 高歩 (名古屋)

設計やまちづくりの仕事を通して、多くの方々と出会い、まちのことを知り、考え、学んでいます。これからもこの仕事を通して、人・まちとの出会いを楽しみにしています。

増殖する妖怪たち

松本 明 (京都)

盆に帰省すると、駅前「水木しげるロード」の妖怪たちに新顔が。1体百万円のスポンサー料を募る新システムにもかかわらずあっという間に27体増殖して113体に。町の活性化が進む。

「骨折り損の…」

山本 昌彰 (大阪)

「骨折り損のくたびれもうけ」。コンサルには無縁(?)。こういう私、本当に手の指を骨折し、現在治療中です。

誰もみな老人になる

取締役会長 三輪 泰司 (京都)

NPOの生命は自主・協同。高齢社会の弊—自己中心、排他性防止の良薬。若い力と交わり、身につけてきた知識と技を活かし、人間味あふれるNPOの活動と連携しよう。

身近な少子高齢化

桃園 和徳 (東京)

私の住んでいる家の周辺を見ると、日常的な交流のある7世帯のうち現役は私だけです。地域で元サラリーマンが活躍できる場づくりの必要性をつくづく感じています。

計画行政学会で頑張ります

森脇 宏 (大阪)

今夏から、日本計画行政学会関西支部の事務局長を務めることになりました。諸先輩が築かれた関西支部の歴史を、さらに発展させるため、微力ながら頑張ろうと思います。

西国街道まち研をやってます

山口 繁雄 (京都)

住んでいるまちに誇りを持ちたい。そんな思いで、住んで30年以上になる向日市で、仲間とともに西国街道沿線のまちづくりを考える活動を行っています。

新婚なので夫婦円満に向けて

和田 裕介 (大阪)

家族会議の結果、週に1度は夫婦一緒に晩ごはんを食べる事になりました。そこで、近所でお気に入りのお店を増やそうと、最近改めて自分のまちを探検しています。

出版のご案内

「自治体と地域住民との協働」

このたび、市町村アカデミー(市町村職員中央研修所)から「自治体と地域住民との協働」(ぎょうせい、2500円税込み)が出版されました。弊社の杉原五郎(大阪事務所長)が「住民参加のまちづくり」をテーマに執筆しています。お問い合わせは大阪事務所杉原まで。

「保存情報 I ふるさとの歴史環境を訪ねて」

名古屋事務所/尾関利勝

JIA(日本建築家協会)愛知地域会保存研究会では「保存情報 I ふるさとの歴史環境を訪ねて」を出版しました。

JIA 東海機関誌アーキテクトに会員が書きためてきたふるさとの歴史的風景・町並み・近代建築の情報を多くの方々にお知らせしたいと出版致しました。

私は日本の名機・零戦が設計された旧三菱重工名古屋航空機製作所本館、南山学園ライネルス館(登録文化財)、愛知学院法人本部棟(登録文化財)についてレポートしています。残念ながら一般書店では販売していませんが、出版界のおすすめもあり、現在検討中です。まだ多少残部がありますので、ご希望の方は名古屋事務所尾関までご連絡下さい。



MEDIA WATCH

「めざせベストサポーター」

サッカーに夢中な子どもたちの
ケアのためのハンドブック

発行／(財)日本サッカー協会
(JFA)ハンドブック3

日本代表を支える裾野の広がり

世界最速でワールドカップ出場を決めたジーコジャパン。コンフェデ杯で世界レベルへと脱皮し、アジア選手権では優勝を逃しながらも、フレッシュな新人達を発掘してチームを活性化させた。

JFAは、2015年にサッカー人口を500万人にして世界のトップ10に入ることを、さらに2050年には必ずW杯優勝を目標に掲げている。A代表が活躍するだけでなく、裾野(サッカーを愛する人)を広げ、日本のサッカーの山を大きくしっぺしたものにしようという戦略が着実に進められている。

JFAから保護者へのメッセージ

紹介するハンドブックには、JFAからサッカーキッズをもつ保護者へのメッセージが込められている。裾野の中で最も大切なキッズ世代(JFAでは8～12歳頃をゴールデンエイジ(黄金の世代)と呼んでいる)の保護者にサポートのあり方を考えてもらい、共に夢を実現しようと呼びかけている。

サッカーは自立を求められるスポーツ

サッカーは、広いピッチに一つのボール、11人の味方が協力してゴールに向かうスポーツ。自由にプレイを止めることはできないし、手を使うスポーツのように正確ではないから、予期せぬ事が簡単に起こる。だから、常に自ら状況を把握し、判断をしてそれに責任を持つ自立した姿勢が求められる。失敗を恐れてボールに絡まずに消えてしまう選手、自立した個性のぶつかり合いがないチームは世界では通用しない。



紹介者／大阪事務所 大河内雅司
(JFA 4級審判員)

ヒデのコミュニケーション力は世界標準

仲間と協力して状況を打開していくために、考えたことを相手に伝えるコミュニケーションの力が必要になる。W杯予選において、中田選手の自己主張は鮮烈だった。声を出し責任を背負って仲間の何倍も汗をかく。逆境下で彼の示した姿勢は、世界標準のコミュニケーション力ではなかったか。

子どもの自立を促す表現力のトレーニング

JFAはハンドブックの中で、考え判断する力、コミュニケーションの力を重視している。例えばそこでは、言葉による表現力のトレーニングが推奨されている。「何となく」「ビミョー」などのコミュニケーションを放棄する表現を許さず、日常生活の中で言葉を使って考え、物事を掘り下げて考える習慣付けを行う方法が紹介されている。

また、子どもの論理的に考える力を引き出すために、どうして?責めにする「問答ゲーム」も紹介されている。勝った負けたの目先の結果にとらわれず、子どもの自立をサポートする親のあり方が問われている。

時代を切り開く日本サッカー界への期待

バブル崩壊後の一つの奇跡として、時代を切り開くモデルとなっている日本のサッカー界。子どもとボールを追いかけながら、大人も一緒に夢を見ることができる。日本サッカー界は多くの問題を抱えながらも、それを乗り越えていく戦略と勢いがある。

日本サッカー協会のホームページ

<http://www.jfa.or.jp>

編集後記

○本号からニュースレターは、紙面をA4化し、デザインもマイナーチェンジしました。それに併せて「ひと・まち・地域」では、様々な地域でそこに暮らすひとたちと共に活発に「ひとおこし」や「まち活かし」をしている紹介などを特集しました。また、所員の一言メッセージは、こころ新たに最近取り組んでいること元気の秘訣(?)などを中心に執筆しました。

○近日中に、HPのニュースレターのページもリニューアルを行います。これからもニュースレターをよろしくお願ひ致します。



身近な場所で中国の喧騒を楽しむ？！

大阪事務所／中村孝子

お盆休みは海外旅行に行きたかったがタイミングをはずしてしまった。どこかに行きたい、身近なところで海外旅行気分を楽しむ場所や方法はないのか。探してみたところ、あるではないか、中国が！

国内外にかかわらず、旅にでかけたら、必ず地元市場に行くことにしている。どこにでもある大型店ではなく、こじんまりした商店街や市場がいい。滞在時間が短い観光客だけれど、少しはそのまちに住んでいるような気分になれるからだ。

さて、話を本題にもどそう。私の行った中国とは、毎週日曜日に開催される中国人の青空市場である。場所は大阪市（鶴見区）にあり、たまたま、入手した雑誌の情報を手がかりに行ってみた。市場は早起きを得意とする中国人らしく朝7時からで、6時半に自宅を出発した。朝寝坊を得意とする私には結構つらい挑戦だ。

到着すると場所を探すまでもなく、すぐに分かった。狭い歩道にひしめく露店と人。「朝市」のほり、駐車禁止を取り締まる警察官とパトカー（私も一時停車で注意されることに）。道路には、

警察署の「道路上での出店・商品の陳列等の禁止」の看板もでている。

露店は約20～30くらいあるだろうか、かすかに香辛料の「八角」やニラの臭いがする。冷凍の肉、野菜、乾物、惣菜や調味料などあふれんばかりの中華食材、海賊版CD、新聞、航空券なども売られている。それだけでなく、本場、中国の朝市で見かけた油条（揚げパン）や豆腐腦（豆腐にスープをかけたもの）まであるのだ。店によっては日本語が通じず、値段の確認など中国語を使う局面もあり、何だか、限りなくあやしい気分になってくる。最初は、悠長に歩いていたが、ひしめく人と中国会話に囲まれているうちに、まるで海外の街を散策しているような緊張感が走る。ここは本当に日本なのか！

大阪には外国の居住者が多いため、コリアンタウンなどもあるが、ここも新たな観光スポットになりそうだ。飛行機に乗らずとも、中国を堪能したい方は、ぜひどうぞ。

場所：鶴見区大阪中央環状線沿い（安田～茨田大宮間）の歩道



脂っこいおいしい揚げパン
(1つ50円)



フタや鶏がパーツごとに
売られている。かなりグロテスク？



狭い歩道につくられた食堂。朝食をと
る人で賑わっている。

アルパック(株)地域計画建築研究所

<http://www.arpak.co.jp> E-mail info@arpak.co.jp

本 社

京都事務所 〒600-8007 京都市下京区四條通り高倉西入立売西町 82

大阪事務所 〒540-0001 大阪市中央区城見 1-4-70 住友生命 OBP プラザビル 15F

名古屋事務所 〒460-0003 名古屋市中区錦 1-19-24 名古屋第一ビル 8F

東京事務所 〒186-0001 東京都国立市北 1-1-17 田畑ビル 3F

九州事務所 (株)よかネット 〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町 3-8 福岡パールビル 8F

TEL(075)221-5132 FAX(075)256-1764

TEL(06)6942-5732 FAX(06)6941-7478

TEL(052)202-1411 FAX(052)220-3760

TEL(042)501-2531 FAX(042)501-3024 分室 / TEL(03)3226-9130

TEL(092)283-2121 FAX(092)283-2128